

コリント

第二

②

「ゆるしの力を
行使しよう」

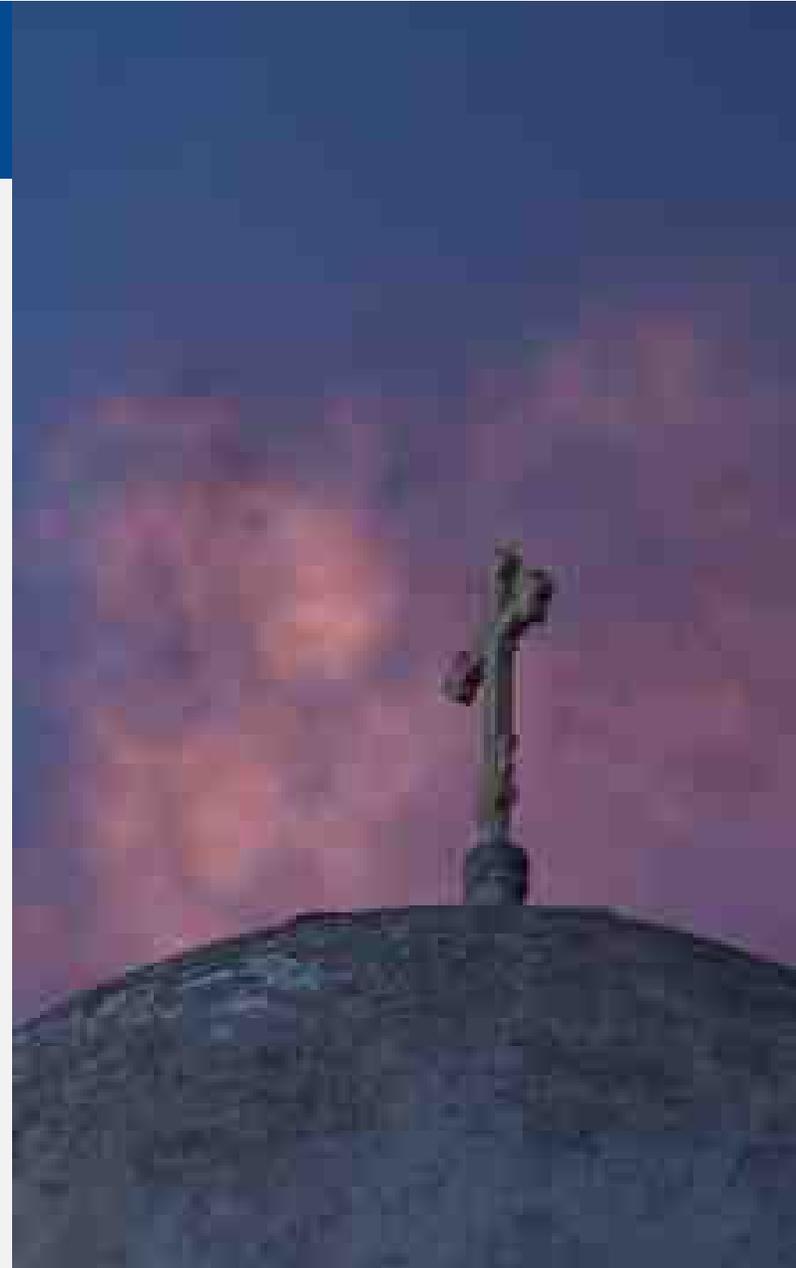
コリント人への手紙Ⅱ 2章

挨拶

アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 悲しみと喜び 1～7節
- II. 愛と赦し 8～11節
- III. キリストの香りとして 12～17節
- IV. まとめと適用

福音の赦しの力を行使しよう



コリントの手紙第二とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …第一(55年)の2年後、57年頃。
- **執筆場所** …コリントへの途上、ピリピ。
- **対象** …コリントのキリスト者たち
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **目的** …アフターケア。献金の促し。
非難への弁明。再訪問の備え。



パウロのコリント訪問

- ① 最初の訪問 (第二次旅行) ・ 1年半滞在 50年
- ② エペソ滞在中 (第三次旅行) 手紙 A を送付
第一の手紙を送付 54～55年
- ③ 二度目の訪問 (Ⅱ コリ 13:2) 55年
手紙 B (悲しみの手紙) を送付
- ④ コリントへの途上で (ピリピ?)
テトスと合い、現状を聞く
第二の手紙を送付 55～56年
- ⑤ 三度目の訪問 55～56年



【コリントとコリント教会】

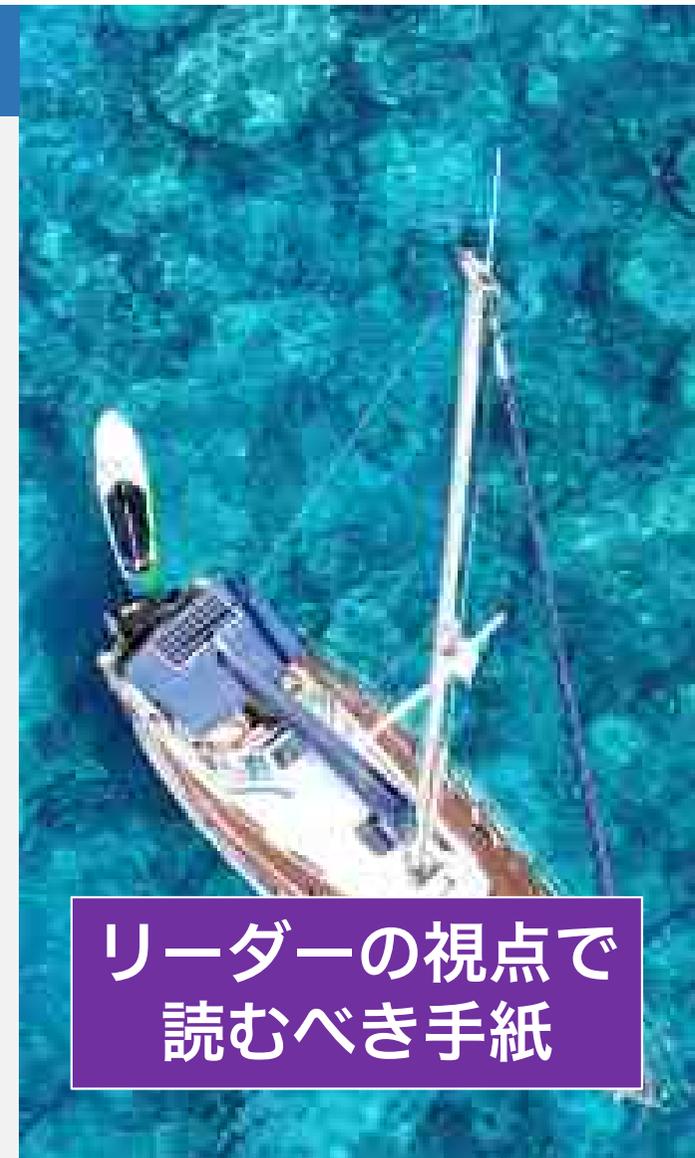
- アカヤ州(ギリシャ南部)の州都
国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- **不道德**の町。少年への性愛、複数の愛人。
神殿娼婦の存在。 **偶像崇拜**が蔓延。
- 異邦人信者が主流。偶像への警戒の薄さ。
基本的教理からの逸脱。自由のはき違え。

第一の手紙の後に変化はあったのか？



第二の手紙の特徴・テーマ

- 第一の手紙は、コリントの信徒もよく知っているはずの**信仰のイロハのイ**を確認するもの。
- 変化もあった一方で、パウロに強まる反感も。
 - ① グッドニュース…罪を犯した人の悔い改め
 - ② 残念なニュース…献金が集まっていない
 - ③ バッドニュース…パウロの使徒性への疑い
- **伝えるべきこと**は、第一の手紙に執筆済み。さらに加えるとすれば、**パウロ自身の思い**。
→ **感情**が強く表れた手紙になっている。



リーダーの視点で
読むべき手紙

パウロの思いをくみ取り、リーダーとして私の信仰を成長させよう



I. 悲しみと喜び

Ⅱコリント2章1～7節

ピリピの円形劇場

【パウロの決心】 IIコリント2:1

そこで*私は、あなたがたを悲しませる訪問*
は二度としない、と決心しました。

*1:23…再訪問に至っていないのは、コリン
トの兄弟姉妹への“思いやり”のゆえ。

*先の訪問は、ある兄弟の厳しく罪を指摘し、
懲戒の決断をもたらし、
コリントの教会に悲しみをもたらした。



【喜びをもたらすこと】 IIコリント2:2

もし私があなたがたを悲しませるなら、私が悲しませているその人*以外に、だれが私を喜ばせてくれるでしょう。

*第一の手紙のつながりで考えるなら、

“父の妻(継母)を自分の妻”とした者か？

■ コリントの信者が犯し、見逃している罪を厳しく指摘したことが、悲しみの原因。

➔ 罪が悲しみをもたらし、

主への悔い改めが、喜びをもたらす。



【パウロの確信】 IIコリント2:3

あの手紙*を書いたのは、私が訪れるときに、私に喜びをもたらすはずの人たちから、悲しみを受けることがないようにするためでした。私の喜びがあなたがたすべての喜びであると、私はあなたがたすべてについて確信しています。

*第一と第二の間に別の手紙が？

→喪失した？ 具体的過ぎて掲載せず？

■罪の悔い改めの厳しい促しを記したパウロ。

→罪に陥った兄弟姉妹の悔い改めこそ、喜び。



強く共感を
求めるパウロ

【慰めのすすめ】 IIコリント2:6~7

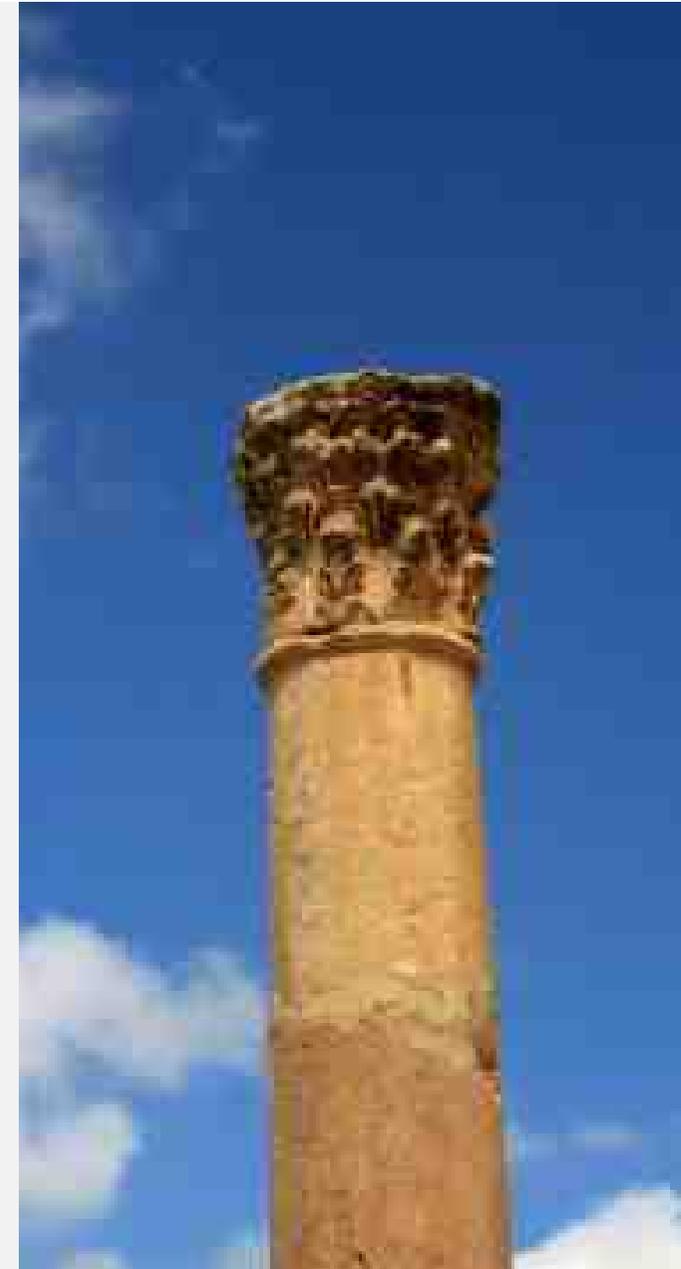
その人にとっては、すでに多数の人から受けたあの処罰*で十分ですから、あなたがたは、むしろその人を赦し、慰めてあげなさい。そうしないと、その人はあまりにも深い悲しみ*に押しつぶされてしまうかもしれません。

*関わりを断ち、放置したのだろう。

*その人の信仰の確かな証しと言える。

■平然と罪にとどまり続けるなら救いも疑問。

→悔い改めに至れるか？ 信仰が試される時。





Ⅱ. 愛と赦し

Ⅱコリント1章3～11節

【愛の確認】 II コリント 2:8～9

そこで私はあなたがたに、その人へのあなたがたの愛を確認することを勧めます。私が手紙を書いたのは、あなたがたがすべてのことにおいて従順であるかどうか、試すためでした。

*悔い改めた者を、喜んで再び迎え入れること。

*キリストの愛の律法への従順。

「コロサイ 3:13 互いに忍耐し合い、だれかがほかの人に不満を抱いたとしても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。」



【キリストの御前で】 II コリント2:10

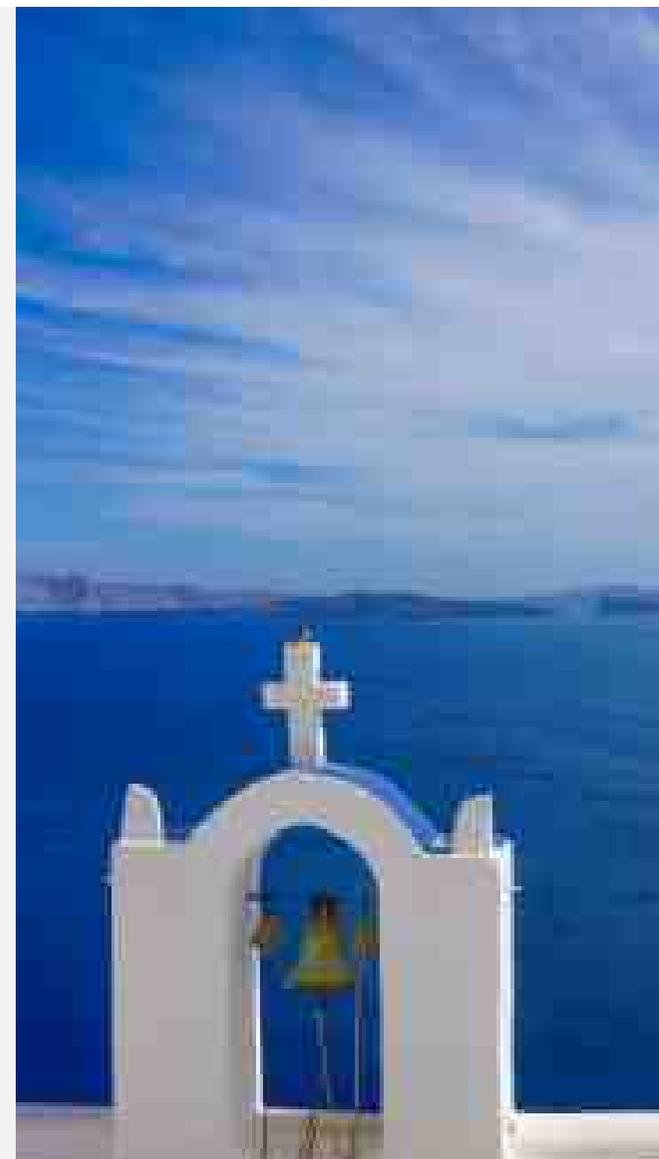
あなたがたが何かのことで人を**赦す***なら、私もそうします。私が何かのことで**赦した**とすれば、あなたがたのために、**キリストの御前で赦した**のです。

*カリゾマイ …恵む、好意を示す、癒やす、
借金を帳消しにする、赦免する …5/28回。

(※カリス …恵み、寵愛、好意、愛らしさ)

■旧約での赦しは、贖い(カフアー)。(イザ6:7)

恵み(ヘセツド)は、主の約束に基づく恵み。



私たちが赦すことができるのは、主イエスの贖いの恵みゆえ

【キリストの御前で】 II コリント 2:11

それは、私たちがサタンに乗じられないようにするためです。私たちは**サタンの策略**を知らないわけではありません。

■ 私たちを主の恵みから引き離す策略の1つは？

→ “赦さない” という思いに捕らえること。

■ 主の恵みの最たるものは？

→ 十字架の贖い、死への勝利・復活の福音。

■ 赦すとは、主の御手にすべてを委ねること。

→ 最高で最大の方法は、福音を伝えること。



使命を果たせば、
後はすべて主の領域



Ⅲ. キリストの香りとして Ⅱコリント2章12～17節

【マケドニアへ】 II コリント2:12

私がキリストの福音を伝えるためにトロアスに行ったとき、主は私のために門を開いておられました*が、私は、兄弟テトスに会えなかったので、心に安らぎがありませんでした*。それで人々に別れを告げて、マケドニアに向けて出発しました。

*福音宣教の十分な機会があった。

*“安らぎがない”という状態を通して、次に踏み出すように促されたパウロ。



【キリストによる凱旋】 IIコリント2:14

しかし、神に感謝します。神はいつでも、
私たちがキリストによる凱旋の行列*に加え、
私たちを通してキリストを知る知識の香り*
を、いたるところで放ってください。

*敵(死・悪)に対する勝利の凱旋

➔掲げられるのは、十字架と復活の福音。

*真実の知識が、主を知らせ、一体化させる。

■ 私たちクリスチャンが歩んでいるのは、
キリストの凱旋の道だと知ろう。



【キリストの香り】 II コリント2:15

私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神に献げられた芳(かぐわ)しいキリストの香り*なのです。

*幕屋(神殿)の至聖所の前に香壇が置かれた。

祭司が献げる香は、民を代表する祈り。

■ クリスチャンとは、神に献げられた香。

神と人々をとりなす主イエスの祈りそのもの。

➡ 主イエスの福音こそ、祈りの核心。



【務めにふさわしい人】 II コリント2:16

滅びる人々にとっては、死から出て死に至らせる香り*であり、救われる人々にとっては、いのちから出ていのちに至らせる香り*です。このような務めにふさわしい人は、いったいだれでしょうか*。

*福音は、拒む者には永遠の滅びを受け入れる者には永遠の命をもたらす。

*福音を信じた “あなた” です!!

ここでも確認される、信仰者の福音宣教の使命



【キリストにあって】 IIコリント2:17

私たちは、多くの人たちのように、神のことばに混ぜ物をして*売ったりせず、誠実な者として、また神から遣わされた者として、神の御前でキリストにあって語る*のです。

*アロンの2人の息子は、異なる火(混ぜ物をした香)を焚いて殺された。(レビ10:1)

→律法主義者や偽教師たちについての警告
教理的逸脱こそ、最も警戒すべきこと

*大原則。主イエスの臨在の恵みの内に語る。

→新生と聖霊の内住が可能にしたこと。





IV. まとめと適用

福音の赦しの力を行使しよう

パウロとコリントの人々の悲しみと喜び

- 重大な罪を犯した兄弟との関係を断ち、主に委ねる懲戒を下すしかなかったパウロとコリントの信者たち。
- 信仰が後退した人と不信仰者は、外面では見分けがつかない。本当に救われているのか。当人も教会も疑念にさらされただろう。
 - ➔ 不信仰がもたらす最たるものは、救いの確信の喪失。
- しかし、その人は悔い改めて、地域教会に回復させられた。永遠の滅びはないと、改めて、その人の救いが明らかにされた。その人を慰め、共に歩むことを、パウロは強く促した。

パウロが促す愛と赦しに応えるために

- パウロがさらに促したのは、その人への愛と赦し。
- 赦しは、主イエスの贖いの上に、はじめて成り立つもの。
“私の罪は赦された” この救いの事実が、他者を赦す土台となる。
- 聖書が記す、“赦し”とは、何も無いことにする無罪放免ではない。
人の罪を贖われた主イエスの裁きの御手に“すべてを委ねる”こと。
- クリスチャンの赦しは、これ以上ない、主イエスへの信頼の表明だ。

思いも感情も、そのすべてを主イエスの御手に明け渡そう

罪に向き合う時 求められる忍耐

- 福音を信じるには、自分の罪を認識することが不可欠だ。悔い改めに至るためにも、罪の自覚は避けて通れない。
- 兄弟姉妹が、自分の罪を拒み、逃避を続けるなら、その罪を、その人の目の前に突きつけるべき時がある。
- 結果、その人は去るかもしれない。
あるいは、群れから離れるよう告げる必要に迫られるかもしれない。
地域教会には、避けようのない痛みがあることを、覚えておこう。

変化と成長を祈って待つ時にこそ、求められる忍耐がある。

赦せないという罪の牢獄から解放されるために

- “赦せない”という思いほど、私たちの心を縛るものはない。
“赦せない”理由は常に私の側にある。手放せるのは私だけだ。
- しかし、“赦す”という決断は、人の意思の力では決して果たせない。
憎悪の鎖がつなぐ、人類の歴史と、一人一人の関係性がある。
- 断ち切る道は、一つだけ。主イエスの贖い、救いに信頼すること。
私は、福音を信じて、ただ信仰と恵みによって救われた。
救われた者が、救う者となることを、信仰者は求められている。

私は赦された。だから、赦すことを求められている。

赦しを実行するために 私自身の体験から

- リベラルの教会で真実の信仰に導かれ、聖書をそのまま語り出した。直面したのは、拒絶、嘲り。罵声や怒号。冷淡な無視…。
- かつての私の姿そのもの、罪の刈り取りだと思い知らされた。ひたすら聖書を解き明かし、福音を告げた。何よりの支えだった。
- 圧倒的にリベラルな教区の総会に出て、福音を告げ、証しした。何度も口にしてきた教団の信仰告白に、はじめて心が震えた。

赦せない相手にこそ福音を告げよう。福音宣教から赦しは生じる

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの^{つみ あがな}罪を贖うために^{じゅうじか し}十字架で死に、

②^{はか ほうむ}墓に葬られ、

③^{みっかめ ふっかつ}三日目に復活した^{しん}こと、を信じます。

^{ふくいん}この福音を信じて、私は救われました。

にも関わらず、^{おか}罪を犯し、^{こうたい おちい}信仰の後退に陥る時があります。

主は、そのことも^{ぞん}ご存じで、^{く あらた}悔い改めた者を^{ゆる}赦してくださいます。

^{ゆる}私は赦されました。この^{ゆる}赦しを、^{しんじつ}真実に私の力としてください。

^{ふくいんせんきょう}福音宣教こそ、^{しめい}私の使命、^{つか}私の力です。どうぞ遣わしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」